



内科レジデントの鉄則 第2版

聖路加国際病院内科チーフレジデント●編

後期研修医や指導医にも熟読してもらいたい良書

評者

川島 篤志

市立福知山市民病院・総合内科医長

先日、お薦め本を紹介しあう機会があり(当院のブログに掲載)、「病棟で困りそうなのが詳しく載っている」という声が挙がる本があった。地方の地域基幹病院で病院総合医を継続し、さらに病院総合医を育てる立場でもある自分にとっては必読書!と、前から気になっていたが、自分自身のために読むのがちょっと気恥ずかしい感じがあった。が、今回、その本の書評を書かせていただく機会をいただいたので堂々とワクワクしながら読ませてもらった。

この本を知らない人へこの本の魅力を伝えると、まず項目立てが面白い。「当直で病棟から呼ばれたら」「内科緊急入院で呼ばれたら」「病棟で困ったら」である。このキーワードにピンとこない若手医師(レジデント)はいないはずである。

各項目は、症例をベースにQ&A方式で進み、コンパクトにまとめられている。引きつけるカンファレンスは興味ある内容とその構成によるが、この本の基が「内科コアカンファレンス」であることด้วยなずける。最初の項目は症状・症候や病気のことが書かれており、若手医師にとってはとても読みやすい導入になっている。ベテランの立場から言うと、「腎機能障害」「担癌患者」「高齢者」という、日常茶飯事に診る可能性があるがあまり俯瞰的に指導されることの少ない項目が含まれていることが嬉しい。どの科に進んでも理解してもらいたい重要な項目である。

“いつ誰が指導するのか”的な要素が、「病棟で困ったら」にまとめられている。おそらく誰もまとまって指導しない……から、困るのかもしれないが、これを意識するのとしなないのでは大違いである。すば抜けた実力のチーフレジデント(後輩たちのこと

をこう言い切りたい!)からの「研修医の視点に立った」カンファレンスは魅力にあふれているに違いない。

少し注文をつけると、Commonな病気であるニコチン依存症に対する禁煙支援(保険診療で病棟診療ができないとしても)や今回から追記された胸部Xpの項目で肺結核にも触れていただきたかった(聖路加国際病院では頻度が低い/入院前の確認ができていないかもしれないが、病棟診療をするうえでは緊急性の高い項目である)。また終末期医療では責任編集の岡田定先生が取り組んでおられる「Living Will」のことに触れていただければ、全国の病棟診療を行う施設にとっては心強かったのではないかと個人的に感じた。

ただ、これはカンファレンスの誌上再録である。これだけまとめ上げられている(磨き上げられている)施設の文化に感嘆する。本来のカンファレンスではこの誌面以上により深みを持って「教え教えられている」のではないかとすらやましく思う。

“新人研修医に「内科の鉄則」を刷り込む本」と序にあるが、現在の研修制度では、より責任を持って診療にあたる後期研修医や、その若手に指導する立場の医師にぜひ熟読してもらいたい本である。「宿題」として全員に課したい衝動にも駆られるが、読みなさい!ではなく自施設で何をどのように伝えるのかを意識する、より良いヒントになる良書だと確信する。

●B5 頁264 2012年

定価3,780円(本体3,600円+税5%)

[ISBN 978-4-260-01466-3] 医学書院刊